

### 39. ながいも (やまのいも)

・殺菌剤

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M3	ジマンダイセン水和剤	散布	収穫 21 日前まで	4 回以内	
—	(クロルピクリン) クロピク 80 ドロクロール	土壌くん蒸	—	1 回	
	クロールピクリン	土壌くん蒸	—	1 回	
M5	ダコニール 1000	散布	収穫 30 日前まで	6 回以内	

・殺菌剤 (参考農薬)

FRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M1	Zボルドー	散布	—	—	
M1*+M5	シトラノフロアブル	散布	収穫 30 日前まで	5 回以内	
11	ストロビーフロアブル	散布	収穫 7 日前まで	3 回以内	
M7	ベルコート水和剤	散布	収穫 7 日前まで	5 回以内	
M3+1	ベンレート T 水和剤 20	10 分間種いも浸漬	植付前	1 回	
		約 2 秒間種いも浸漬			

・殺虫剤 (参考農薬)

IRACコード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アディオオン乳剤	散布	収穫 7 日前まで	5 回以内	
28	ベネビア OD	散布	収穫 7 日前まで	3 回以内	
3	マブリック水和剤 20	散布	収穫 7 日前まで	2 回以内	
4	モスピラン顆粒水溶剤	散布	収穫 7 日前まで	3 回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

病害虫名 (F : 菌類病、B : 細菌病、V : ウイルス病、O : その他の病原体)

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
褐色腐敗病 根腐病 (F)	植付前	1. 種いもは、無病いもを選ぶ。 2. 切りいも後、種いもは切断面の陽干しを 20～25 日間行う。 3. クロルピクリン剤で土壌消毒する。植付前 1 ヶ月～3 週間位に処理し、処理後は必ずポリエチレンフィルムで被覆する。ガス抜き後、種いもを植付ける (土壌消毒の項を参照する)。 [参考農薬] 1. 種いもをベンレート T 水和剤 20 の 100～200 倍液に 10 分間浸漬 (褐色腐敗病)、又は 20 倍液に約 2 秒間浸漬 (根腐病) する。	1. クロルピクリン処理はポリエチレンフィルムで被覆しないと防除効果が劣る。 2. 種いも浸漬処理は、切りいも前に行い、浸漬後はよく乾燥させてから切りいもする。
青かび病 (F)	植付前	1. 種いもは、無病いもを選ぶ。 2. 切りいも後、種いもは切断面の陽干しを 20～25 日間行う。 [参考農薬] 1. 種いもをベンレート T 水和剤 20 の 100～200 倍液に 10 分間浸漬する。	1. 催芽を行ってから植付けると発病が少なくなる。 2. 種いも浸漬処理は、切りいも前に行い、浸漬後はよく乾燥させてから切りいもする。

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
炭 疽 病 (F)	生 育 期 間	1. ジマンダイセン水和剤 600 倍液、又はダコニール 1 0 0 0 の 1,000 倍液を散布する。  [参考農薬] 1. Z ボルドー 500 倍液、又はシトラノフロアブル 1,000 倍液を散布する。	1. 盛夏過ぎに発生すると激発することがある。 2. 肥切れや水不足は、発生を助長する。 3. 収穫後は、茎葉を除去し焼却する。
葉 渋 病 (F)	生 育 期 間	[参考農薬] 1. Z ボルドー 500 倍液、シトラノフロアブル、ダコニール 1 0 0 0 の 1,000 倍液、ベルコート水和剤 1,000～2,000 倍液、ストロビーフロアブル 2,000～3,000 倍液のいずれかを散布する。	1. Q o I 剤に関する注意事項「56. 野菜類の総括注意」参照。 2. ベルコートは蚕毒に注意する。
ピ シ ウ ム 腐 敗 病 (F)	生 育 期 間	1. ほ場の排水を図る。 2. 発生地では連作しない。	1. 収穫後、いもを洗浄する際は清浄な水で行う。
アブラムシ類 (ウイルス媒介)	植 付 時	1. 無病いもを用いる。	1. 種いもがウイルスに汚染されていると良品生産できない。 2. 生育期間中見廻り、ウイルス症状のある株に標識をつけておき、種いもに使用しない。 3. アブラムシ類は早期に防除を行う。 4. アディオン、マブリックは蚕毒及び魚毒に、モスピランは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。
	生 育 期 間	[参考農薬] 1. アディオン乳剤 2,000～3,000 倍液、マブリック水和剤 2 0 の 2,000～4,000 倍液、モスピラン顆粒水溶剤 4,000 倍液のいずれかを散布する。	
ネコブ センチュウ	植 付 時	1. 土壌線虫の項を参照する。	
黒変症状 (ユミハリ センチュウ)	植 付 時	1. 土壌線虫の項を参照する。	
ナガイモコガ (ヤマノイモ コガ)	生 育 期 間	[参考農薬] 1. アディオン乳剤 2,000～3,000 倍液、マブリック水和剤 2 0 の 2,000～4,000 倍液、ベネビア OD 4,000 倍液のいずれかを散布する。	1. アディオン、マブリックは蚕毒及び魚毒に、ベネビアは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。 2. ベネビアに関する注意事項 (1) 展着剤を加用すると薬害が生じる場合があるため、展着剤は加用しない。 (2) アルカリ性の農薬や肥料との混用はさける。 (3) 薬害が生じるおそれがあるので、アミスター (Q o I 剤) の成分を含む農薬、銅剤と混用しない。また、アミスター (Q o I 剤) の成分を含む農薬を散布した場合には、2 週間以上間隔を空けて本剤を使用する。